第10回　役員訪問　聞かせてください

聞き手／ 常任理事　藤 井 美 穂

・生 年 月 日　昭和17年4月13日
・出　生　地　函館市
・出 身 大 学　北海道大学
　　昭和43年卒　第一外科
・好きな言葉　誠実を尽くす

●小学校の担任の影響でアウトドア志向に

藤井：医師になった動機をお聞かせ下さい。

北野：小さい頃ジフテリアに罹患し、生死の境をさまよった経験が大きく影響しています。

私は4人兄弟の次男ですが、誰かを医師にしたいという親の希望もありました。

もし医師になっていなければ弁護士かパイロットになりたかったですね。

藤井：幼少時の思い出は？

北野：とりわけ小学校時代の思い出が強く残っています。

私の担任は、自分の出世を棒に振って6年間継続して担任を受け持ってくれました。スキー・水泳で国体に出場するような人で、大変なスパルタ教師でした。私の趣味がアウトドアスポーツなのも、この先生にマンツーマンでしごかれたおかげです（笑）。

北海道学芸大学（現 北海道教育大学）函館校の附属中学時代は、わざと教育実習生を困らせて楽しむ悪ガキでした。その後、函館西高校に進学。とにかく活発な子どもでした。

●外科から精神科へ転科

藤井：先生は北大第一外科のご出身ですね。

北野：大学卒業後は、病理の基礎講座に5年間在籍し、実験病理や解剖を研究していました。その後第一外科で学び、北海道健康保険北辰病院（現 札幌社会保険総合病院）へ行きました、続いて苫小牧市立病院へ。

藤井：現在は小樽の木下病院（精神科・神経科）理事長でいらっしゃいますが、精神科に転科されたきっかけは？

北野：元々は妻の父親が経営していましたが、急逝されたのを機会に引き継ぎました。

藤井：環境が一変された時のご苦労はさぞやと思われますが･･･。

北野：考え方や治療法がまるで違うので、今まで積み上げてきた土台がほとんど通用しませんでした。だから医局に入り勉強し直しました。

患者さんの状態は24時間変化します。本を読むだけでは分からないことがたくさんありますから、「まず体験する」ことを心掛けました。

当時は本当に眠る暇もありませんでしたが、幸福にも、私は先輩、上司、同僚に恵まれており、山下格北大名誉教授や森田昭之助前旭医大教授、西村昭男先生（カレスアライアンス理事長）、佐野文男先生（天使大学 看護栄養部教授）など多くの先生に相談に乗っていただきました。

藤井：先生が診療される上で気をつけてらっしゃることはありますか？

北野：どの科にも通じると思いますが、インフォームド・コンセントと患者・家族との信頼関係を築くことです。

とくに精神科は話し合いの機会を多く持つことが大切。日中調子の良い場面を

名寄ピヤシリにて

北海道医師会　常任理事　北野明宣（きたの あきのぶ）

見るだけでは全体像は分かりませんから、朝でも夜でも時間の許す限り患者さんの話に耳を傾けるようにしています。
藤井：お好きな言葉「誠実を尽くす」を見事に実践されていらっしゃいますね。

●親の背中を見て長男も医師に

藤井：最近嬉しかったことはありますか？
北野：子どもが2人いるのですが、長男が大学を卒業し、研修医として頑張っていることです。私は子育てをしていないので、子どもの進路に口出しすることはありませんでしたが、卒業が決まったときは嬉しかった。
藤井：お子様は、しっかりと親の背中を見ていらっしゃったのですね。

●恩師の言葉をいつも胸に

藤井：道医の役員に就任されて4年、医業経営・福利厚生部長としてご活躍されていますね。
北野：いつも優秀なスタッフに助けられています（笑）。
　講演等で各地に出張する機会が多く、いろいろな面で勉強になります。
　恩師の故・葛西洋一教授に言われた「立場があなたをつくる、あなたの能力ではない」という言葉が思い起こされます。
藤井：お忙しいなかご趣味を楽しむ時間はありますか？
北野：道医に来てからはほとんどありません。だから会議中につい外を眺めて「今頃あそこで遊んでいるのに･･･」と考えてしまいます（笑）。
藤井：アウトドアではどのようなスポーツをされるのですか？
北野：ゴルフ、登山、スキー、スノーモービル、マリンジェット、船などを楽しんでいます。
　海と山の近い小樽は最高の環境、悪友がたくさんおり「先生、先生･･･」と誘ってくれるんです。体力のあるうちに、いろいろなことにチャレンジするのが今後の楽しみです。
　カナディアンロッキーに行ってみたいですねぇ。

インタビューを終えて

患者の話を聞くことの大切さを再確認

常任理事　藤井美穂

　インタビュアーの私が、いつのまにか先生に話を聞いてもらっていました。「仕事柄いつも聞き役です」と笑顔でおっしゃる先生を見て、患者さんと接する時に大切なことは、話を聞いてあげることだと再確認させていただきました。